



ニュース防災

15号

発行：興野町住宅自治会 責任者：会長

2016年12月10日

東京防災隣組認定団体合同交流会報告

C7号

平成28年10月30日の東京防災隣組認定団体合同交流会に、C3号の湯沢さんとC7号の吾郷の二人で参加してきました。

第1部：認定団体の活動事例発表

町田市の9つの自治体が協力して、2016年より小学校避難所施設の開設訓練を年4回実施した事例発表

第2部：「熊本地震から考える防災対策」 跡見学園女子大 氏による講義

家具の転倒防止等と火災発生の対策が重要

第3部 ワークショップ テーマ「災害対策の困ることとその対策」

他の自治体の規模が異なる地域の話や、様々な災害対策の話を知ることができるなど、合同交流会に参加できて大変良かったと思いました。

予告

普通救命出前講座

災害だけでなく、日常の緊急時にも役立つ救命出前講座です。この機会にぜひ受講することをお勧めします。あなたの意識が変わります！

日時：1月22日(日)13:00~16:00

場所：第一集会所

講師：西新井消防署大師前出張所指導員

募集：20名

費用：500円※本来の受講料は、1,400円かかりますが、災害対策部より900円負担します。

予告

台所防災講習会

災害時に水や火の制限がある場合、自宅にあるものを使って参加者と一緒に調理実習をします。

日時：2月5日(日)10:00~13:00

場所：第一集会所

メニューについて

- ・混ぜるだけ 切り干し大根のポン酢漬け 乾パンとあんこ
- ・汁物 トン汁
- ・ビニール袋で調理 白米の湯炊き、カボチャの煮物
- ・アルファ米の応用
自宅にストックされているアルファ米をご持参いただき、おいしく食べる方法を体験してみましよう。

予告

西新井小学校 防災教育研究会公開授業

防災学習ツール「防災巻き」を活用した
「命を守るための方策」を考える学習

日時：12月19日(月)13:45~16:45

※受付開始13:15

13:45~14:30 公開授業

(1年1組、4年1組、5年3組、6年1組)

14:30~14:45 体育館へ移動

14:45~15:40 ワークショップ 防災巻き

15:40~15:45 準備

15:45~16:40 防災講演会

「家庭・地域・学校が災害に備えておくこと」
～東日本大震災の教訓から～

講師：元宮城県石巻市北上中学校校長
先生

16:40~16:45 謝辞

主催：西新井小学校、

緑のバトンプロジェクト実行委員会

後援：文部科学省

※防災巻きとは
災害が発生した後、
刻々と時間が経過の中
で自分の置かれた状況
や何がどう動くかを想像しながら、生きるために何が
出来るかを考えるトレーニング方法です。



備えよう 13



地誌 b

災害対策部

今から 12,000 年～8,000 年位前までは、埼玉平野(もちろん西新井本町も含まれております)は塩水が支配している海でした。

その遠浅の海の深奥部は、埼玉県「栗橋」辺まで達しておりました。この栗橋と言う地名は、重要な地形上の場所で埼玉平野の歴史を調べる内に多々出てまいります。また、埼玉平野の湾口ですが、武蔵野台地(神田のある本郷台地、上野の山の上野台地等の連なる台地で、現在の隅田川の右岸に当たる)と下総台地(現在の市川と松戸を結ぶ江戸川左岸に当たる)に挟まれた幅 16 km 位のところです。そして中央奥には半島のように大宮台地が突出しておりました。埼玉平野が海であったと言う確かな証拠は海の時代の岸辺で発掘された「貝塚」があります。大宮台地だけでも 20 カ所以上もあります。

この埼玉平野の原型の浅海も、時とともに高地より流入する土砂などで浅くなり、ついには淡水の支配するところになり、平野の中心を利根川の原型の河が一本にまとまり、埼玉県、群馬県、栃木県の水をとうとうと流していたと思われまます。現在の中川が昔の利根川だったようです。(いろいろ人間が流れを変えたりしました。)

その利根川の流れを、徳川幕府が約 60 年の年月をかけて現在のような流れ(河口が銚子)に変えました。それを今は、利根川の東遷と呼んでおります。何百年か前までは、利根川は足立、葛飾を流れておりました。

次の証拠ですが、想像でしかないかもしれませんが、海路、陸路、街道「みち」とは、行政上、中央庁から地方庁へ年間を通して安全、安定に行き来できる「路」を「みち」として認めていたのだと思います。律令制の頃、甲斐国(山梨県)が「東海道」だったり、武蔵の国は東山道だったりして、上総(かずさ)、下総(しもふさ)の順序が、現在人では理解できないと思いますが、海側が上総で内陸部が下総でした。海側からの方が、海路が通っていて、大和(ヤマト)の都には近かったのです。

(次号へつづく)



災害と正常性バイアス

11 月 22 日に発生した福島沖地震 M7.4、最大深度 5 弱の地震がありました。3. 11 の東日本大震災が頭によぎった方もいらっしゃることでしょう。テレビのアナウンサーの呼びかけは、今までにない切迫した呼びかけでした。福島の人々は？津波は？いよいよ東南海地震かしら？と…ところがその後のニュースで、福島の人々あんなに大変な経験をしたのに、避難しない人がかなりいたことに、ビックリしました。これはいったいどういうことなのでしょうか・・・

人間の心理には

見たくないものは見ない。
聞きたくないものは聞かない。
考えたくないことは考えない

心理学的に言うと、「正常性バイアス」が働くと言うことだそうです。

なぜ、そうなるのでしょうか？

人間には、何かが起こるたびに反応していると、精神的に疲れてしまうので、自然と脳が働いて、心の平安を守る作用が備わっています。それが「正常バイアス」です。ところが防御作用の正常性バイアスが度を超すと、結果的に逃げ遅れて、危険な状況を招きかねないことになるのです。

- ・見たいことは見える！
- ・聞きたいことは聞こえる！
- ・考えたいことだけを考える！
- ・あつては困ることはない！

ではどうしたらいいの？

最近、地震や様々な災害の「想定外」が出現しています。「緊急地震速報や非常ベルで茫然となった」とよく聞きますが、そうならないために有効なのが「訓練」です。訓練を重ねることで、イザという時、自然にいつもと同じ行動を取ることができて、身を守れることにつながります。

編集後記



今年の冬は長期予報によると、例年より雪の日が多いようです。外はすっかり街路樹の葉が落ちてしまいました。公園で遊んでいる保育園の子ども達のかん高い声が、私たちを元気にしてくれています。さて、皆さんの家の暖房機器の具合は大丈夫ですか？冬はとかく家にこもりがちになります。寒くても天気の日、防寒対策をして外出する機会を作るよう心がけて、冬を乗り切りましょう！！

(M・M)